令和８年度

「運営に関する計画」

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

大阪市立東井高野小学校

令和８年１０月

（様式１）

大阪市立東井高野小学校　令和８年度　運営に関する計画・自己評価（総括シート）

１　学校運営の中期目標

現状と課題

○本校の教育目標「豊かな心を育み、自らの能力を伸ばすたくましい子どもを育てる。」の達成には、児童にとって学校が「楽しい」と感じられる場であることが前提となる。しかし、大阪市小学校学力経年調査の「学校に行くのは楽しいと思いますか。」の質問に対して、毎年８％程度の児童が否定的に回等しており、すべての児童が安心して学校生活を送れているとは言えない状況がある。この背景には、いじめや不登校等の課題も関連していると考えられることから、家庭や関係諸機関と連携しながら、児童一人ひとりが安心感をもって過ごせる学校づくりを推進する必要がある。

○規範意識や自己有用感の醸成、他者尊重の態度や将来を見据えた自己イメージの形成には、自己肯定感の育成が不可欠である。しかし、「自分には良いところがある」と肯定的に回答する児童の割合は依然として十分とは言えず、自分に自信をもてずに学校生活を送っている児童も見られる。今後は、体験活動や集団活動の充実を通して、一人ひとりが自らの良さを実感できる機会を計画的に設定していく必要がある。

○本校では、火災や地震等を想定した避難訓練を実施し、防災に関する基本的な知識や行動の定着を図ってきた。しかし、訓練が形式的になり、児童一人ひとりが主体的に「自らの命を守る」という意識を十分に高めるまでには至っていない。また、災害の状況に応じて適切に判断し行動する力や、自助・共助・公助の視点で考える力の育成にも課題がある。今後は、各種訓練のねらいを明確にし、事前・事後の学習を充実させることで、児童が主体的に考え行動できる力を育成し、防災意識を高めていく必要がある。

○大阪市小学校学力経年調査においては、国語の平均正答率が全市と比較して十分とは言えず、基礎的・基本的な学力の定着に課題が見られる。また、学習に対する主体的な取組や学習習慣の定着にも課題があり、自ら計画を立てて学習に取り組む力の育成が求められる。さらに、話し合い活動を通して自分の考えを深めたり広げたりする力にも個人差が見られることから、「わかる授業づくり」を基盤として、言語活動の充実や主体的な学びの実現を図る必要がある。

○全国体力・運動能力、運動習慣等調査においては、体力面では概ね良好な結果が見られる一方で、運動やスポーツに対する意識には差があり、運動に親しむ児童とそうでない児童の二極化が見られる。また、規則正しい生活習慣の確立についても、家庭環境等の影響を受けやすく、継続的な指導が必要である。すべての児童が運動や生活習慣の重要性を理解し、日常的に実践できるよう支援することが求められる。

○ICT 機器や一人一台端末の整備により、日常的に ICT を活用した学習環境は整ってきているが、調べた情報をもとに課題解決を図る力や、情報を整理・表現する力の育成には課題がある。今後は、ICT を効果的に活用した学習活動を計画的に位置付け、学習の質の向上につなげるとともに、情報活用能力の育成を図る必要がある。

○教育活動を安定的に推進するためには、教職員が心身ともに健康で意欲的に職務に取り組むことが不可欠である。しかし、業務の多様化に伴い負担感が増している現状も見られることから、業務の精選や働き方の見直しを進めるとともに、教職員が働きがいを感じながら児童と向き合う時間を確保できる環境づくりが求められる。

○読書活動については、学習基盤としての重要性が高い一方で、読書に対する関心や習慣には個人差が見られる。学校図書館の活用や読書活動の充実を通して、読書に親しむ態度を育成し、学力向上の基盤づくりにつなげていく必要がある。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

○令和１１年度の大阪市小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しい」に対して肯定的に回答する児童の割合を９５％以上にする。

○令和１１年度の大阪市小学校学力経年調査における「自分には良いところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を８９％以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○令和１１年度までの大阪市小学校学力経年調査における国語の平均正答率について、同一母集団の経年比較において、対全国比で各学年とも毎年0.01ポイント以上向上させる。

○令和１１年度の大阪市小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を８５％以上にする。

○令和１１年度の校内調査における「自分で課題を決めて自主学習(予習・復習など)に取り組んでいますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を９０％以上にする。

○令和１１年度の大阪市小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を９０％以上にする。

○令和１１年度の大阪市小学校学力経年調査における「規則正しい生活（「朝食を毎日食べること」「毎日、同じくらいの時刻に寝て、同じくらいの時刻に起きること」）が大切だと思う。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を９０％以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

○令和１１年度の大阪市小学校学力経年調査における「学習者用端末を活用して調べた情報をもとに、課題を解決するために情報を収集・整理し、まとめ・表現する取組をしていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を８０％以上にする。

○「ゆとりの日」を週１回以上設定する。年次有給休暇を１０日以上取得する教職員の割合を８０％以上とする。さらに、学校閉庁日については、夏季･冬季休業中に各３日以上、年間で計１０日以上設定する。

○教職員を対象としたストレスチェックにおいて、「仕事の量的・質的負担」に関する項目を大阪市平均以下とする。

○令和１１年度の大阪市小学校学力経年調査における「読書は好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を８５％以上にする。

２　中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

○大阪市小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しい」に対して肯定的に回答する児童の割合を９１．６％(昨年度同調査９１．５％)以上にする。

○大阪市小学校学力経年調査における「自分には良いところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を８５．５％(昨年度同調査８５．４％)以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○大阪市小学校学力経年調査における国語の平均正答率について、同一母集団の経年比較において、対全国比で各学年とも前年度より 0.01 ポイント以上向上させる。

○大阪市小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を７７％以上にする。

○校内調査における「自分で課題を決めて自主学習(予習・復習など)に取り組んでいますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を８６％以上にする。

○大阪市小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を８５％以上にする。

○小学校学力経年調査における「規則正しい生活（「朝食を毎日食べること」「毎日、同じくらいの時刻に寝て、同じくらいの時刻に起きること」）が大切だと思う。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を８５％以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

○大阪市小学校学力経年調査における「学習者用端末を活用して調べた情報をもとに、課題を解決するために情報を収集・整理し、まとめ・表現する取組をしていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を６５％以上にする。

○「ゆとりの日」を週１回以上設定する。年次有給休暇を１０日以上取得する教職員の割合を８０％以上とする。さらに、学校閉庁日については、夏季・冬季休業中に各３日以上、年間で計１０日以上設定する。

○教職員を対象としたストレスチェックにおいて、「仕事の量的・質的負担」に関する項目を大阪市平均以下とする。

○大阪市小学校学力経年調査における「読書は好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を６５％以上にする。

（様式２）

大阪市立東井高野小学校　令和８年度　運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準　A：目標を上回って達成した　　B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった　　D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【安全・安心な教育の推進】 ○大阪市小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しい」に対して肯定的に回答する児童の割合を前年度(昨年度同調査９１．５％)以上にする。 ○大阪市小学校学力経年調査における「自分には良いところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度(昨年度同調査８５．４％)以上にする。	―

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向番号1、安全・安心な教育環境の実現】 職員全体でいじめの早期発見や、不登校傾向にある児童についての共通理解に努める。また、関係児童への細やかな対応・配慮を行えるよう、学校全体で指導・支援体制を整える。 （いじめへの対応）（不登校への対応）	B
指標　「心の天気」を毎日実施し、「相談機能」を含めて複数の職員で確認し、児童の心の変化に素早く対応できるようにする。また、これらの情報を共有し、個に応じた指導・支援方法の手立てを組織として考え、共通理解する生活指導報告会を、毎学期複数回実施する。	
取組内容②【基本的な方向番号1、安全・安心な教育環境の実現】 災害など緊急事態において、自らの命を守るための避難行動をとることができるよう、目的意識をもった防災教育を推進し、防災への意識を高める。（安全教育の推進）	B
指標　火災・防犯・地震・津波を想定した避難訓練を年間３回、引き渡し訓練を１回実施する。各訓練の前後には、自分たちができることについて考える時間を設ける。また、各教科等で、災害や防災に関係する学習を行う際には、各クラスで児童の発達段階（学年）に応じて、自助、共助、公助についての話をする。	
取組内容③【基本的な方向番号1、安全・安心な教育環境の実現】 児童会行事の充実、児童のたてわり（異学年交流）活動の充実を図り、児童にとって楽しい学校生活ができるようにする。（不登校への対応）	B
指標　・児童会を中心に、児童会行事やたてわり活動の際に、がんばったことや良いことを褒めて自己肯定感を高めるフィードバックを行う。 ・全学年が関わるイベントを３つ以上行う。また、全学年が学年間の交流を系統立てて１回以上行う。	
取組内容④【基本的な方向番号２、豊かな心の育成】 校外学習やゲストティーチャー招聘、遠足・社会見学などの学習機会を充実させる。また、児童が将来の夢や目標、自己有用感を持つとともに自他を尊重する心を育む。 （キャリア教育の充実）	B
指標　校長経営戦略予算も活用し、校外学習やゲストティーチャー招聘、遠足・社会見学などの学習機会を、全学年で年間複数回実施する。また、学期ごとや行事ごとにキャリアパスポートや振り返りシートを活用し、児童が自己の成長を振り返る機会とする。	
取組内容⑤【基本的な方向番号２、豊かな心の育成】 教育活動全体を通じて、発達段階に応じた系統的な人権教育を実践し、児童が社会の様々な人権課題に対する正しい理解と認識を持てるようにする。（人権を尊重する教育の推進）	B
指標　人権教育年間指導計画に基づいた取り組みを学期に１回以上行い、年度末に成果と課題を共有する。	
取組内容⑥【基本的な方向番号２、豊かな心の育成】 教育活動全体を通じて、全児童の参加感を高めることで、自他の尊重を育み、「共に学び、共に育ち、共に生きる教育」を推進する。（人権を尊重する教育の推進）	B
指標　校内調査における「自分には良いところがあると思いますか」に対する肯定的に回答する児童の割合 80%を目指す。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

年度目標

○大阪市小学校学力経年調査未実施（１２月実施予定）

○大阪市小学校学力経年調査未実施（１２月実施予定）

取組内容①どの学年・クラスも心の天気を実施できており、「晴れ」以外の児童に対しては注意深く様子を確認したり、声掛けしたりできている。管理職を含めた教職員からも気になる児童の共有もあり、学校全体で取り組めている。また、生活指導報告会や全体会でも気になる児童や家庭の共有を行えている。

取組内容②１学期、２学期の訓練について計画通りに実施できた。理科や社会等各教科の指導や事前・事後指導でのアンケートの実施により自助・共助・公助について意識できるようになってきた。

取組内容③児童のたてわり（異学年交流）活動を集会の時間に毎回行ったり、２学年ごとに休み時間に遊ぶ時間を作ったり、あいさつ運動を行ったりした。また、各学年で学年間交流を行っている。児童会の児童のフィードバックはその都度行っている。

取組内容④年度当初に計画していた校外学習や出前授業は計画通りに実施できている。また、ゲストティーチャーを招聘した授業やスポーツ体験・観戦の機会も設けた。さらに、4月には計画になかった体験的活動も、必要に応じて行うことができた。様々な取り組みを通して、子どもたちは知見を広げたり、自身の将来について考えたりすることができている。１学期の始めと終わりには、キャリアパスポートを活用し、子どもたちが自分の生活や成長を振り返られるようにした。

取組内容⑤10 月時点で、学期に一度以上人権教育年間指導計画に基づく取り組みが行えている。ただ、人権教育年間計画については改善が必要ではないかという声もあった。全教育活動を通して人権教育を行っていることが見えるように計画の形式を検討する必要を感じている。2 学期初めに人権教育実践報告会を行った。本年度は、東淀川区の人権教育実践交流会の報告校である。現在、報告者が中心となって報告レポートを作成中である。前年度までは年度末に人権教育実践報告会を行い一年間の成果と課題の共有を行っていたが、今年度は２学期初めに人権教育実践報告会を行った。

取組内容⑥校内調査における「自分には良いところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合８７．１％で、目標の８０％を上回っている。しかし、学年によってばらつきがある。今年度の研究で、誰もが取り残されることなく参加感を感じることができる授業づくりを工夫している。また、様々な学級で、『いいところ見つけ』などを行い、自尊感情を高める取り組みを行ったり、ペアやグループ活動、児童会活動などで、参加感を感じることができる取り組みを行ったりすることができている。

年度末に向けての改善点

年度目標

〇大阪市小学校学力経年調査の結果をもとに分析を行い、改善点を整理し、教育活動に反映させる。

〇大阪市小学校学力経年調査の結果をもとに分析を行い、改善点を整理し、教育活動に反映させる。

取組内容①入力できている児童がほとんどだが、入力状況には個人差（パソコン忘れなど）が見られるため、引き続き声掛けが必要である。

取組内容②引き続き各教科との関連付けた指導を行い、普段から防災意識を高められるようにする。また、今後の訓練実施に向けて設備の点検、マンネリ化を防ぐための補助資料の見直しを行っていく。

取組内容③児童会行事やたてわり活動の際に、がんばったことや良いことを称賛・共有するなど、全学年でフィードバックする機会を確保する。また、今後も全学年が関わるイベントや、学年間の交流を行う機会を作っていく。

取組内容④今後も、知見や体験を得られるように環境を模索・整備していく。また、学期や活動ごとに自己を振り返る場面を設定し、豊かな心を育むようにする。

取組内容⑤引き続き人権教育年間計画に基づいて取り組みを続けていく。11 月の人権教育実践報告会に向けて、レポートの作成に取り組む。また、人権教育年間計画の形式については年度末に検討する。

取組内容⑥今後も学級または学校全体で自己肯定感や参加感の高まる取り組みを続け、教職員間で情報を共有しながら進めていく。参加感を高めるための授業づくりについても、引き続き研究を行っていく。教職員全体で児童の良さへの具体的な声掛けを続け、児童が自分の良いところに気づける機会を増やしていけるようにする。

（様式２）

大阪市立東井高野小学校　令和８年度　運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準　A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【未来を切り拓く学力・体力の向上】 ○大阪市小学校学力経年調査における国語の平均正答率について、同一母集団の経年比較において、対全国比で各学年とも前年度より 0.01 ポイント以上向上させる。 ○大阪市小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を７７％以上にする。 ○校内調査における「自分で課題を決めて自主学習(予習・復習など)に取り組んでいますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を８６％以上にする。 ○大阪市小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を８５％以上にする。 ○小学校学力経年調査における「規則正しい生活（「朝食を毎日食べること」「毎日、同じくらいの時刻に寝て、同じくらいの時刻に起きること」）が大切だと思う。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を８５％以上にする。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向番号４、誰一人取り残さない学力の向上】 校内研究において、昨年度までの研究を活かした「主体的・対話的で深い学び」に焦点をあて、授業の充実と改善を図る。(言語活動・理数教育の充実)(「主体的・対話的で深い学び」の推進) 指標　研究主題『共に「わかる」・「できる」・「楽しい」を実感できる授業づくり』に迫るために、各部で計画を立て、教職員一人ひとりが実践、検証、修正を行い、取り組んでいく。月１回以上部会を開き、進捗状況を確認して研究を進めていく。	B
取組内容②【基本的な方向番号４、誰一人取り残さない学力の向上】 さまざまな学習の中で、「自分の思い」や「自分の考え」を伝え合うための対話や交流を取り入れ、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができる授業づくりを行う。(「主体的・対話的で深い学び」の推進) 指標　言語力を活かした対話と交流をするために、さまざまな学習の中で話し合い活動に週１回以上取り組む。	B
取組内容③【基本的な方向番号４、誰一人取り残さない学力の向上】 学校全体として、系統立てて学習規律や基礎学力の定着をはかる。(「主体的・対話的で深い学び」の推進) 指標　学年部会を月１回行い、学力向上に関する取り組みの進捗状況の確認を行う。	B
取組内容④【基本的な方向番号４、誰一人取り残さない学力の向上】 授業で学習したことを振り返ったり深めたりするために、引き続きプラスノートを活用し、家庭学習の習慣へとつなげる。(「主体的・対話的で深い学び」の推進) 指標　プラスノートの取り組みを週１回以上行う。	B
取組内容⑤【基本的な方向番号５、健やかな体の育成】 運動に親しむ機会を設けたり、用具の充実を図ったりして、進んで体力づくりに取り組めるようにする。(体力・運動能力向上のための取組の推進) 指標　学期に１回以上の運動週間や運動に関する取り組みを実施する。また各クラス週１回以上みんな遊びを実施し体力の向上を図る。	B
取組内容⑥【基本的な方向番号５、健やかな体の育成】 子どもの規則正しい生活や早寝早起きについての意識を高める。(健康教育・食育の推進) 指標　健康な生活に関する意識を高めるため、保健だよりを年１０回以上発行し、学期に１回以上の保健指導を行う。	B
取組内容⑦【基本的な方向番号５、健やかな体の育成】 朝ごはんの大切さを知り、朝ごはんを食べると生活リズムが整うことや、一日の活動への充実につながることを理解する。(健康教育･食育の推進) 指標　朝ごはんの大切さについての健康教育、食に関する指導を年間１回以上する。さらに、通信を年間１回以上発行し家庭への啓発を行う。	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

年度目標

○大阪市小学校学力経年調査未実施（１２月実施予定）

○大阪市小学校学力経年調査未実施（１２月実施予定）

○校内調査における「自分で課題を決めて自主学習(予習・復習など)に取り組んでいますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合は８４．９％であり、目標の８６％をやや下回っている。プラスノート(自主学習)での学習は計画通り行えている。

○大阪市小学校学力経年調査未実施（１２月実施予定）

○大阪市小学校学力経年調査未実施（１２月実施予定）

取組内容①各学年部で年間計画を立て、話し合いながら仮説→実践→検証→修正を繰り返すことで、研究主題に迫ることができている。また、一人ひとりの進捗状況や成果と課題を、月に１回の学年部会で共有し、次月の研究に生かしている。さらに、教職員全体で研究中間発表会を実施し、各学年部の成果と課題について交流・共有を図ることができている。

取組内容②ペア、グループ、全体など教科や単元などによって活動方法を考え、「自分の思い」や「自分の考え」を伝え合うための対話や交流の場を多く持つようにしている。伝える工夫を考える児童が増えてきて、活発なやり取りが見られるようになってきている。

取組内容③学年部会を月１回以上行い、学力向上に関する取り組みの進捗状況を確認している。ハンドサインやノートの使い方を学校全体で統一し、話し方・聞き方やモジュール学習の内容は、各学年の発達段階に応じて取り組んでいる。共通理解のもとで指導を進めているが、児童の定着状況や取り組みの課題について学年部会での時間が足りず、十分に共有できない場合もある。

取組内容④プラスノートでの学習は、各学年で週１回以上取り組んでいる。課題の例示やノートの紹介等を通して、意欲的に取り組む姿や、学習内容を工夫してまとめる姿が見られる。一方、取り組みの頻度や内容には個人差があり、自分で課題を決めて継続的に取り組むことには課題がある。

取組内容⑤週に１回～多いクラスでは毎日みんな遊びを実施したり、係が呼びかけたりして積極的に体力向上に向けて取り組みが行われている。また、ボール運動だけでなく、「鬼遊び」や「走る」などの運動も偏りなく行えている。１学期にはドッジビーFES を開催し、全児童が参加し運動に親しむ機会を作ることができた。

取組内容⑥「ほけんだより」を発行し、配布時に学級で内容を確認することで継続的に健康的な生活に関わる指導ができた。また家庭向けの内容で保護者への協力を呼び掛けた。保健指導も全学年に実施できた。特に高学年に向けて睡眠に関する指導を行い、各自の就寝時刻を見直す機会となった。

取組内容⑦「食育だより」や「きゅうしょくだより」などの通信を毎月発行し、各学年での食に関する指導を計画的に実施できている。また、夏季休業時に「朝ごはんカレンダー」を発行し、長期休業中でも朝ごはんを食べることを意識づけられるように取り組んだ。朝ごはんを食べる習慣の定着に向けて、継続して指導が必要である。

年度末に向けての改善点

年度目標

○大阪市小学校学力経年調査未実施（１２月実施予定）

○大阪市小学校学力経年調査未実施（１２月実施予定）

○【取組内容④】参照

○大阪市小学校学力経年調査未実施（１２月実施予定）

○大阪市小学校学力経年調査未実施（１２月実施予定）

取組内容①引き続き学年部会で計画的に取り組み、部内研修や授業の中で実践→検証→修正を行いながら、さらなる授業改善を図ることができるようにする。また、それぞれの進捗状況を研究部会や全体の場で共有しながら進めていく。各部での研究を他学年でも取り入れていけるようにし、学校全体で指導力を高めあっていけるようにする。

取組内容②引き続き、言語力を活かした対話と交流については、今後も様々な教科で活用する場をつくっていけるようにする。

取組内容③引き続き月１回の学年部会でモジュール学習や学習規律、基礎学力の定着状況、取り組みの成果と課題を共有する時間をできるだけ確保する。また、各学年・学級で効果のあった指導方法を交流し、学校全体で系統立てた指導につなげていく。

取組内容④プラスノートでの学習の進め方を交流し、児童が目的をもって取り組めるようにする。課題の例示や児童の取り組みの紹介を工夫し、自分で学習内容を選べるように支援する。また、週１回以上の取り組みを継続し、授業の振り返りや予習につながる家庭学習の習慣化を図る。

取組内容⑤児童の満足度が高くなるようにあそびの内容を工夫したり、用具が充実したときには紹介したりするなどみんなと共有していく。暑い時期・寒い時期の体力向上の取り組みを考える。計画的に○○週間を実施することで、体力づくりを促していく。

取組内容⑥引き続き、「ほけんだより」を通じて、健康的な生活についての啓発を行う。手あらい週間、長期休業中の歯みがきカード等で健康的な生活が実践できているか振り返る機会を持つ。

取組内容⑦引き続き、通信やホームページ等を通して、朝ごはんの大切さや栄養バランスのよい食事について家庭への啓発を行う。また、日々の給食指導や各学年での食に関する指導を通して、児童が朝ごはんの大切さを理解し、朝ごはんを毎日食べる習慣を身に着けられるよう継続して働きかけていく。

（様式２）

大阪市立東井高野小学校　令和８年度　運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準　A：目標を上回って達成した　　B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった　D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【学びを支える教育環境の充実】 ○大阪市小学校学力経年調査における「学習者用端末を活用して調べた情報をもとに、課題を解決するために情報を収集・整理し、まとめ・表現する取組をしていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を６５％以上にする。 ○「ゆとりの日」を週１回以上設定する。年次有給休暇を１０日以上取得する教職員の割合を８０％以上とする。さらに、学校閉庁日については、夏季・冬季休業中に各３日以上、年間で計１０日以上設定する。 ○教職員を対象としたストレスチェックにおいて、「仕事の量的・質的負担」に関する項目を大阪市平均以下とする。 ○大阪市小学校学力経年調査における「読書は好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を６５％以上にする。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向番号６、教育ＤＸ(ﾃﾞｼﾞﾀﾙﾌｫｰﾒｰｼｮﾝ)の推進】 学習者用端末を活用して調べた情報をもとに、課題を解決するために情報を収集・整理し、まとめ・表現する取組を行う。　(ICT を活用した教育の推進)	B
指標　学期に１回以上、学習者用端末を活用した調べ学習などを行う。また、整理しまとめたことを発表したり掲示したりする。	
取組内容②【基本的な方向番号７、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 授業時数、校務分掌および業務内容の見直しを行い、業務の平準化・削減を図る。また、会議時間の短縮（資料の事前共有・ペーパレス化）や ICT の活用により、勤務時間内の業務完遂に向けた取り組みを推進する。　(働き方改革の推進)(教員の資質向上・人材の確保)	B
指標　時間外在校等時間の平均を、前年度比で３％削減する。また、「ゆとりの日」を週１回確実に実施する。	
取組内容③【基本的な方向番号７、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 教育の質を維持・向上させるために、心理的安全性の高い職場づくりを推進し、業務改善に関する意見を出しやすい環境を整える。また、ストレスチェックの結果や管理職による声かけ・面談を通して、個々の業務負担の把握と支援を行う。 (働き方改革の推進)(教員の資質向上・人材の確保)	B
指標　業務改善に関する取組を学期に１件以上実施する。また、管理職による全教職員への声かけ・面談を学期に１回以上行う。	
取組内容④【基本的な方向番号８、生涯学習の支援】 学習内容に応じて、学校図書館の本を活用し、調べ学習に取り組む。必要に応じて、市立図書館と連携し、団体貸出などを利用する。 (「大阪市子ども読書活動推進計画」に基づいた取組)（学校図書館の活性化）	B
指標　学校図書館やその蔵書を活用した授業を年１回以上行う。また、読書タイムなど、毎週１回以上、本に親しむ時間をつくる。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

年度目標

○大阪市小学校学力経年調査未実施（１２月実施予定）

○【取組内容②】参照

○ストレスチェック結果未着（１１月通知予定）

○大阪市小学校学力経年調査未実施（１２月実施予定）

取組内容①各学年、学期に１回以上は学習者用端末を活用した調べ学習を行うことができている。低学年では、主に生活科や図画工作科で調べ学習を行うことができた。高学年では、主に社会科や総合的な学習の時間で調べ学習を行い、整理しまとめたことを共有することができた。また、委員会活動では、学校全体への周知に繋げるために、調べたことを元にポスターを作成する場面も見られた。

取組内容②教職員に計画的に休暇等を取得するように声かけするとともに、休暇を取った教職員の支援体制を組織的に行うことで、有給休暇等を取得しやすい環境を整えている。夏季休業日の閉庁日については、10 日分設定し、実施することができた。業務の平準化・削減については授業時数の見直しや、校務分掌の見直し等を通して努めている。しかし、現段階では教職員の時間外勤務時間が昨年度より８％多くなっている。また、「ゆとりの日」の週１回実施については行えているが、退勤時刻に個人差があり、十分とはいえない。

取組内容③教育の質を維持・向上させるための心理的安全性の高い職場づくりを目指し、１学期は職員室内に休憩スペースを設置した。また、２学期は運営に関する計画に全教員が参画できる仕組みをつくり、業務改善に関する意見を出しやすい環境を整えた。また、日常的な管理職による声かけ・面談を通して、個々の業務負担の把握と支援を行っている。

取組内容④各教科において学校図書館の蔵書を活用した授業を行うことができた。また、学期に１回の読書週間、週１回の読み聞かせや読書タイムで本に親しむ時間を作ることができている。全校で読書カードを活用し、家庭との連携も図っている。

年度末に向けての改善点

年度目標

○大阪市小学校学力経年調査の結果をもとに分析を行い、改善点を整理し、教育活動に反映させる。

○【取組内容②】参照

○【取組内容③】参照

○大阪市小学校学力経年調査の結果をもとに分析を行い、改善点を整理し、教育活動に反映させる。

取組内容①様々な教科において、学習者端末を活用することができる場面を探っていく必要がある。調べたり、整理しまとめたりすることにはまだ個人差もある。タイピング練習で基本的なスキルを養い、調べた情報（写真や文字など）をまとめるためのアプリケーションの活用を継続的に続けることで、児童がデジタル機器を活用していく力の向上に努めていく。

取組内容②さらに教職員一人ひとりが課業中を含め休暇等を取得しやすい体制を整える必要がある。また、教職員の教育活動のへの日々の取り組みの中で、業務量と勤務時間にはばらつきがみられるので、会議時間の短縮（資料の事前共有・ペーパレス化）や ICT の活用、適材適所による業務のコーディネート等により、引き続き校務の整理と日常業務の精選をすすめ、勤務時間内の業務完遂に向けた取り組みを推進する。

取組内容③ストレスチェックの結果（11 月通知予定）をもとに、個々の質的・量的な業務負担の把握を客観的に行い、職場環境の具体的な問題点を明確にすることで、実効性のある業務改善へとつなげていくようにする。

取組内容④蔵書の選択や読む量に個人差があるなど、読書カードを活用できていない学年もある。調べ学習に学校図書館の蔵書を活用するために、今後も司書や図書ボランティアと連携し、引き続き取り組んでいく。